

全労済 2014 年 社会貢献活動レポート



子どもたちの未来への夢を応援します。

日頃は、全労済の運動と事業の発展に向けてご支援・ご協力いただくとともに、全労済の推進する社会貢献活動に対してもご尽力賜り、心から感謝申し上げます。

さて、私たち全労済は、「防災・減災」「環境保全」「子どもの健全育成」の3つを重点分野として、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。とりわけ、東日本大震災の発生から3年余りが経過した今なお継続した支援が必要であると考え、昨年度より「東日本大震災を風化させない取り組み」を展開してきました。その具体的な取り組みを挙げれば、2013年度において開催した「被災地の子どもたちの森づくり支援活動」や「きずな公演」などにより、被災地の子どもたちの心のケアや健全育成のための一助を果たすことができました。また、2012年度より継続して取り組んできた「読み聞かせ会」では、アンパンマンの作者であるやなせたかしさんの作品「やなせたかしのメルヘン絵本」のタペストリーを活用し、被災地をはじめとする子どもたちに笑顔をお届けすることができました。

一方、昨年の5月に迎えた『こくみん共済』の30周年を記念して展開している「こくみん共済U-12サッカーリーグ」を通じて、全国の子どもたちの心身の育成と未来への夢の実現に向けて応援させていただいています。

このような取り組みを通じて、職域や地域の皆さまとの結びつきを大切にするとともに、たすけあいの精神から生まれた共済生活協同組合として、皆さまから必要とされる全労済であり続けたいと願っています。

私たち全労済は、厳しさと難しさの混在する環境下にあります。それらを克服・打開するとともに、私たちの理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を実践し、これからも積極的に社会貢献活動に取り組んでまいります。引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2014年7月

全国労働者共済生活協同組合連合会
代表理事 理事長

中世古 廣司



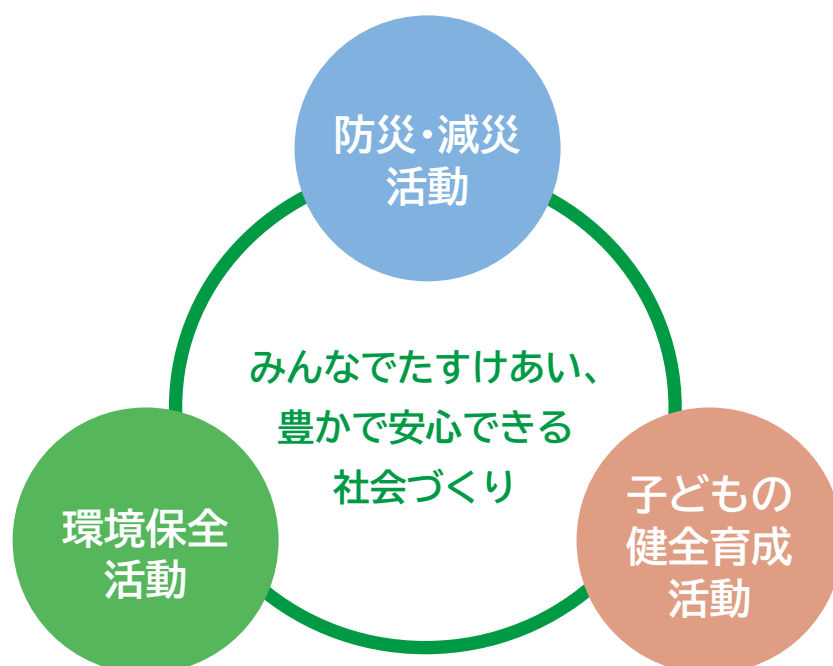
全労済の社会貢献活動

全労済の理念は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」です。

私たちは、この理念に描く社会の実現のため、『防災・減災活動』『環境保全活動』『子どもの健全育成活動』の、3つの重点分野を中心に、社会貢献活動に取り組んでいます。

さらに、「東日本大震災を風化させない取り組み」として、2012年度よりさまざまな被災地支援を継続しています。

私たちは、防災・減災知識の習得と訓練を
すすめることで、地域の防災意識を高め、
安心できる社会づくりの構築を目指します。



私たちは、省エネルギー・緑化活動等に積極的に取り組み、豊かな自然環境や生物を守り、次世代に引き継いでいくことを目指します。

私たちは、未来を担う子どもたちの健全な成長を願い、学習支援等、地域の“きずな”を大切にしたい子育て支援をすすめます。

目次

理事長メッセージ	1	環境保全活動	15
全労済の社会貢献活動／目次	2	全労済地域貢献助成事業	
活動ハイライト2013 東日本大震災を風化させない取り組み		全労済地域貢献助成事業	16
No.1 被災地の子どもたちの森づくり支援活動	3	2014年 全労済地域貢献助成事業 助成団体一覧 ..	17
No.2 きずな公演（郡山公演）	7	2013年 助成団体インタビュー	19
こくみん共済 U-12 サッカーリーグ	9	全国の事業所での活動	21
子どもの健全育成・次世代育成活動	11	役職員ボランティア	23
防災・減災活動	12	全労済グループの取り組み	24
地域・文化支援などその他の活動	13	全労済 関連事業会社の取り組み	25

この冊子は全労済の2013年度（2013年6月1日～2014年5月31日）における（一部2014年度を含む）主な社会貢献活動をまとめたものです。



活動ハイライト2013 NO.1

東日本大震災を
風化させない
取り組み

被災地の子どもたちの 森づくり支援活動

全労済では、環境保全活動において公益社団法人 国土緑化推進機構とパートナーシップを組んでいます。2013年12月からは、同機構が実施する「震災地域における学校教育環境向上のための緑化事業」を通して、当該地域で緑化活動を行う児童の組織、「緑の少年団」をサポートしています。

東日本大震災の被災地では、特に沿岸部の海岸林が津波により壊滅的な被害を受けるなど、震災を機に緑が減少しました。私たちは、被災地の緑を回復し、子どもたちの緑を大切にする心を育てる目的で、植樹のための木々や、活動用のユニフォームを寄贈するなどの取り組みを行っています。2014年5月までに、岩手県、宮城県、福島県に立地する小学校6校の植樹会において、記念植樹を行いました。各小学校では、寄贈したばかりのまっさらなユニフォームを身に着けた児童たちが元気いっぱいに植樹を行い、教職員の皆さまをはじめ、父兄や地域の皆さまなどがその姿を見守りました。

被災地には、今も癒えない傷を抱えて生活する人たちが多く、子どもたちもまた例外ではありません。津波被害のあった地域の小学校では、「被災した地区を通ると当時のことを思い出します。気持ちを明るくしてくれる緑を大切にし、もっと増やしたい」と話す児童にも出会いました。当支援活動によって植樹した木が、子どもたちとともに健やかに成長し、小学校と周辺地域の皆さまの心を和ませるようになってくれることを願っています。





2014年
4月26日

岩手県
葛巻町立
小屋瀬小学校

❀ オオヤマザクラ
❀ ソメイヨシノ



2014年
4月24日

宮城県
登米市立
米川小学校

❀ シダレザクラ
❶ 紅梅



2013年
12月9日

福島県
田村市立
美山小学校

❀ ソメイヨシノ



2013年
12月4日

岩手県
大船渡市立
吉浜小学校

❀ マンサク



2014年
2月18日

宮城県
気仙沼市立
馬籠小学校

❀ オオヤマ
ザクラ



2014年
5月29日

宮城県
塩竈市立
第一小学校

❀ ツバキ



地域に根付く、 アットホームな小学校を舞台に

支援活動の舞台となった小学校のほとんどが、全校児童100人未満の小規模校で、児童と児童、先生と児童との距離が近く、地域とのつながりが強い、アットホームさが特徴です。学年にかかわらず、お互いの名前を呼び合い、一緒に遊ぶ姿が印象的でした。自然環境に恵まれた地域でもあり、日ごろから緑と親しむ機会が多いことを背景に、緑の少年団としての活動も活発に行われてきました。しかし震災を機に、従来どおりの活動ができなくなってしまったケースも少なくありません。

失われた命のためにも、前を向いて

震災の日は町を飲み込む津波が見えたという岩手県大船渡市立吉浜小学校では、緑化活動を本格的に再開したいとの声が聞かれました。全児童が毎朝職員室に顔を見せて挨拶をするという福島県田村市立美山小学校の緑の少年団団長は、「被災地が元気になるようお願いを込めて植樹した」と話してくれました。県内外の緑化コンクールで受賞歴がある宮城県気仙沼市立馬籠小学校。震災で失われた命の中には、教員や児童の親戚の方も含まれていたそうです。校長先生は、「亡くなった人たちのためにも、未来に向けて、前を向いて成長してほしい」と語ってくれました。桜が咲く季節に植樹会を実施した、宮城県登米市立米川小学校と岩手県葛巻町立小屋瀬小学校。米川小学校の緑の少年団は、舞茸の伏せ込み作業というユニークな活動を行っています。舞茸は、地域の森林組合の皆さんに見守られて育ちます。土曜日に開催された小屋瀬小学校の植樹会には、父兄の皆さまの姿も。この地区も被災地ですが、緑の少年団が野菜を育てて販売し、より被害の大きかった地域に売り上げを寄付してきました。最後に訪れたのは、児童数が唯一300人規模の宮城県塩竈市立第一小学校。「津波が襲ったこの町を、緑いっぱいになりたい」と、みどりの少年団代表は話してくれました。

参加者の声

これまで、地元の間伐材を使った巣箱づくりなども行ってきました。僕たちが自然を大切にしないと、自然も僕たちの目を楽しませてはくれません。これからも協力して、緑を増やしていきたいです。今日は被災地が元気になるよう思いを込めて植えました。



福島県 田村市立美山小学校
緑の少年団団長
大山颯太(そうた)さん

参加者の声

緑がいっぱいで空気がきれいな地元が大好きです。学校の近くで、カモシカを見ることも珍しくありません。みんなで自然とふれ合いながらできる、みどりの少年団の活動はとても楽しいです。活動のあとは、家でその日のことを、よく家族に話しています。



宮城県 登米市立米川小学校
緑の少年団
団長
[中央] 西城希望(のぞむ)さん
副団長
[右] 千葉花(はな)さん
[左] 千葉咲花(さくら)さん

参加者の声

田舎での子育てに憧れ、また、葛巻の自然エネルギーへの取り組みに共感して、一関から引っ越してきました。一番上の子が小屋瀬小学校に入学しました。震災の後は苦労もしましたが、今は学校も地域もあたたかく子どもを見守ってくれるので安心してしています。



岩手県 葛巻町立小屋瀬小学校
南館さんファミリー





参加者の声

ここの子どもたちは、恥ずかしがり屋で純朴。上手に話すことは得意ではないけれど、緑化のような奉仕活動に自ら進んで一生懸命に取り組めます。たくさんの方が犠牲になった気仙沼で、亡くなった人たちのためにも、前を向いて成長してもらいたいです。



宮城県 気仙沼市立馬籠小学校
木村玲子校長(取材当時)



プロジェクトパートナーの声

プレゼントされたユニフォームを身に着け、植樹に参加する緑の少年団の子どもの笑顔。被災地の未来を担う子どもたちには、緑豊かな環境の中でのびのびと、自然を畏れ敬い大切にできる心の豊かな人に育ってほしいと願っています。



公益社団法人
国土緑化推進機構
常務理事
青木正篤氏



担当者の声

学校・家庭・地域・行政そして民間が、力を合わせて子どもたちと故郷の未来のために汗を流しました。たくさんの笑い声が響く、この地域の人たちの未来は明るい。我等がつくる我等が郷土にいっぱい花を咲かせたい。



全労済 岩手県本部
管理部 総務課 課長
滝本昭信

緑化を通じて学ぶ、他者とのつながり

地域と学校によって、震災の被害・復興状況や、その後の向き合い方にもそれぞれに違いがあります。しかしながら、あの震災を経験しながらも、自分たちよりもさらに大きな被害を受けた人たちの思う気持ちは共通しているように感じられました。また、子どもたちは、緑化活動を通じて、自然環境の問題や森林の働きについてのみならず、仲間と協力して作業を行い、地域との結びつきの大切さもしっかりと学んでいます。震災の被害がより甚大だった、漁業の盛んな沿岸部を念頭に、「海の豊かさは、健全な森林があつてのこと。森林を大切にすることで支えていこう」と児童に呼びかける校長先生がいらっしゃいました。その言葉に象徴されるように、緑を大切にすることが、自然と人、ひいては人と人とのつながりを大切にすることにつながるのだと、子どものみならず、大人にも気付かせてくれるところに、この活動の素晴らしさがあると再認識させられました。植樹用には、サクラやマンサク、ツバキといった、美しい花をつける樹種を多く寄贈しています。子どもたちには、花の咲く季節や新緑など四季折々の変化を感じながら、震災からの復興やより良い自然環境を願って自ら植えたそれらの木々を、長く記憶していただきたいと思います。

全労済は、東日本大震災の被災地をはじめ、今後はさらに広い地域において、こうした緑の少年団の活動を、引き続き応援していきます。

4～5月の春、花が咲く季節に訪問し、みどりの少年団の子どもたちがユニフォームを着用し植樹をする姿を見て、爽やかな気持ちになりました。植物や生き物が大好きな人になってもらいたかったです。



全労済 宮城県本部
事業推進部 部長
齋藤幸造



活動ハイライト2013 NO.2 東日本大震災を風化させない取り組み



福島県郡山市

きずな公演(郡山公演)

昨年、避難生活を送る被災地のご家族などをお招きして、都内にて開催した公演に引き続き、今年は福島県郡山市で「きずな公演」を実施しました。会場は、桜の名所で知られる開成公園の向かい側に位置する「郡山市ニコニコこども館」。見頃の桜に迎えられるように、203名もの親子連れが来場され、「影絵グループあけびの会」および「劇団目覚時計」による演目などを楽しみました。歓声を上げたり、出演者と一緒に踊り、歌う子どもたちの姿も見られ、盛況をもって公演を終えることができました。

大人も子どもも楽しめる公演に

2014年4月13日、福島県郡山市での「きずな公演」は、元気の良い「おはようございます!」でスタート。午前部の楽しみは、世界16カ国で公演してきたあけびの会による影絵です。「きずな公演」のために用意されたのは、桃太郎のお話として知られる「たろう」や「ピーターパン」などのほかに、皆で声を合わせて歌える演目も。影絵の織りなす幻想的な世界に、子どもも大人も魅了されました。会場からは、独特の色と光が新鮮で印象的だったとの感想が聞かれました。午後部は、前年に東京都江東区で開催した「きずな公演」でも多くの子どもたちを楽しませてくれた、劇団目覚時計による公演。昨年お亡くなりになった、やなせたかし氏による『やなせたかしのメルヘン絵本』のストーリーを、代表の稲垣美穂子さんが朗読したり、劇団員の皆さんが熱演し、こちらも大変盛り上がりしました。間近で見る劇団員

の演技は迫力があって引き込まれます。フィナーレは、「花とクジラ」のシーンを、子どもたちも参加できる花吹雪で締めくくり終了。今年もやなせワールドが会場をわかしました。来場された方々とは、最後に記念撮影をしてお別れです。皆さん、春の晴れた空の下、咲き誇る桜を目にしながら帰途につかれました。

東日本大震災から3年以上が経過した今、被災された方々からは、やっと落ち着いたという声と、大変さは変わらないという声の両方が聞こえてきます。とりわけ、原発避難者13万人を抱える福島県の事情は複雑です。子どもたちがのびのびと遊ぶ機会が少なくなったとの報告もあります。本公演では、ひと時ではありますが、福島の子供たちには楽しい時間を提供でき、笑顔を見ることができました。開催にあたりご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。



プロジェクトパートナーの声



劇団目覚時計
杉本真奈美さん

やなせ作品は、楽しいお話の中に哲学があって、難しくもやりがいがあります。私たちの役目は、やなせ先生が込めた思いを表現して、作品を伝えていくこと。被災地で子どもたちに観てもらうことに、喜びと責任を持って臨みましたが、感性のままに受け取り、反応してくれる子どもたちの姿に、逆に元気をもらいました。素晴らしい作品を遺されたやなせ先生と、このような場を用意してくださった全労済さんに感謝しています。

担当者の声



多くの大切なものを失った震災の記憶が時間の経過とともに風化することなく、ここで生まれた「きずな」がつながっていくことを願い、引き続き被災地の支援に取り組みでいきたいと思っています。



全労済 福島県本部
事業推進部 次長
大塚晃

「きずな公演」に来場されたご家族の声

1歳半を過ぎたばかりの息子も、意外に集中して見ていました。小さいなりに引きつけられるものがあったのでしょうか。震災の後、原発事故のことで妊娠中に神経を使いました。東北では沿岸を中心に、今も大変な思いをされている方も多い中、世の中の関心が薄れてきていると感じます。今日のような催しは、被災地が励まされるとともに、大人も子どもと一緒にリフレッシュできる機会になりありがたいです。



菅野さん
ファミリー
(郡山市)

丸山さん
ファミリー
(郡山市)



震災の後、娘はこの子たちを連れてあてもなく避難しました。新潟に落ち着き、2年過ごしてから、郡山に戻って来ました。無我夢中だったのでしょが、よくやったと思います。孫たちも、遊ぶことすらままならず我慢が多かったろうと胸が痛みます。私が子育てをしていた頃、劇などを見せに連れて行っていたので、今日は孫にそれができて本当に良かったです。一緒に歌を歌ったり、はしゃいでいました。



読み聞かせリレープロジェクト

全労済の「読み聞かせリレープロジェクト」は、東日本大震災の被災地や避難者の子どもたちの心のケアと健全育成を目的に、2012年11月よりスタートしました。東北の被災地(岩手県、宮城県、福島県)や東京都を中心に、『やなせたかしのメルヘン絵本』のタペストリーの貸し出しとボランティアによる読み聞かせ会を開催し、これまでに44カ所の保育園・幼稚園等で、延べ3,274名の子どもたちを対象に実施しました。



保育園での読み聞かせの様子



子どもの健全育成・次世代育成活動

全労済は「こくみん共済 U-12 サッカーリーグ」を応援しています!!

全労済は、公益財団法人 日本サッカー協会(JFA)が主催する「U-12サッカーリーグ」に特別協賛し、サッカーを通じて子どもたちの心の育成を応援しています。

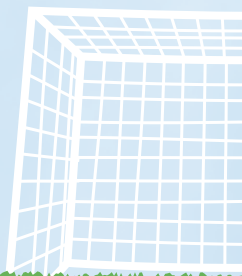
JFAでは、日本の将来を担う子どもたちのサッカーへの興味・関心を深め、サッカーを通じて心身を鍛え、リスペクトの精神を養い、クリエイティブでたくましい人間の育成を目指しています。また、「U-12サッカーリーグ」は、「Players First!」(関わる大人が力を合わせて子どもたちに理想の環境を)を合言葉に、育成年代にふさわしいゲーム環境を創出するため、ボールに関わる頻度が高い8人制サッカーを2009年度より実施しています。JFAの「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。」という理念と生活圏に根付いた「U-12サッカーリーグ」の活動は、地域との結びつきを大切にする共済生活協同組合である全労済の理念や活動と通ずるものであり、「こくみん共済 U-12サッカーリーグ」への協賛を決定いたしました。全労済として、“みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり”の理念のもと、「たすけあい」「共助」の精神で、社会に貢献する活動を続けてまいります。

開催概要

名称	こくみん共済 U-12サッカーリーグ(in 開催都道府県名)
主催	公益財団法人 日本サッカー協会、開催都道府県サッカー協会
主管	市区郡町村サッカー協会 期日2013年6月～(通年)
会場	各都道府県
特別協賛	全労済(全国労働者共済生活協同組合連合会)
協賛	株式会社ナイキジャパン



✦ 2013年度に参加チームに配布したサポートキット ✦



✦ 各地で開催したイベント風景



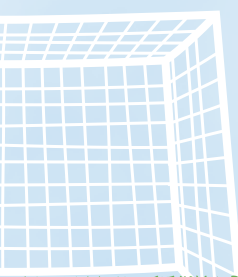
サッカースクール&トークショーを開催

全労済では全国6カ所でサッカースクール&トークショーを開催しました。2013年10月14日に北海道札幌市にて、元サッカー日本代表の福西崇史さんをスペシャルコーチにお招きしました。当日は、札幌市東区のU-12チームに所属する小学生162名が福西コーチのオリジナルメソッドを取り入れたスクールとミニゲームに参加しました。トークショーでは、「たくさん遊んでたくさん寝た」という小学生の頃の生活や練習内容から、日本代表時代の試合への心構えなどについて語っていただき、参加者の質問にも答えていただきました。将来Jリーグや海外リーグで活躍したいと話す子どもたちからは、「一緒にサッカーができて楽しかった」「トリッキーなプレイがすごかった」と声が上がっていました。



イベント開催一覧

開催日	会場	主催	協力(協賛)	参加人数
2013年10月14日	札幌アミューズメントパーク	札幌地区サッカー協会4種委員会	全労済北海道本部	162名
2013年11月24日	山形県総合運動公園 屋内多目的コート	全労済山形県本部	NPO法人 山形県サッカー協会	99名
2013年12月23日	アスティとくしま 多目的ホール	全労済徳島県本部	一般社団法人 徳島県サッカー協会	104名
2014年 2月16日	クローバーフットサルクラブ ワッセ仙台	全労済宮城県本部	社団法人 宮城県サッカー協会	80名
2014年 4月 5日	秋田県立中央公園 あきたスカイドーム	一般社団法人 秋田県サッカー協会	全労済秋田県本部	92名
2014年 4月27日	青森市屋内グラウンド サンドーム	一般社団法人 青森県サッカー協会 青森市サッカー協会 全労済青森県本部	—	102名



こくみん共済マスコット
ピットくん



30th
Anniversary

世代を超えて、
安心をつなぐ。
こくみん共済



子どもの健全育成・次世代育成活動

趣旨



少子化をはじめとする家庭環境の変化や、地域社会におけるつながりの希薄化等、子どもや家庭を取り巻く問題が複雑化しています。全労済では、未来を担う子どもたちのために、助成事業による、人と人とのきずなを大切に、子どもの健やかな成長を支える活動支援のほか、インターンシップ・寄付講義などを通じたキャリア教育支援を行うことで、課題解決に取り組んでいます。

インターンシップの受け入れ

全労済では、学生の皆さまの就業体験を支援することを目的に、就業に対する意識を高め、心構えができる機会となるよう、毎年インターンシップ実習を実施しています。

内容は、ビジネスマナーや協同組合の基礎を学ぶことから始まり、協力団体訪問などの事業推進業務、共済金支払業務などの現場を見学し、全労済総会においては、実際に事務局補助として働いていただきました。最終日には実習のまとめとして、どんなことを感じ・学んだのかを、レポートを作成してもらい報告会を実施しました。



課題に取り組む実習生



担当者の声

2013年度は、8月19日(月)～30日(金)までの2週間にわたり、2名の学生を受け入れました。さまざまな職種の現場を体験し、また、協力団体の方々のご協力により貴重な話を聞くことができ、いろいろなことを考え、学ぶことができた実習だったと思います。受入側の職員としても学生の方々の新鮮な感覚に学ぶことがたくさんあり、互いに良い実習だったと感じました。

全労済 人事部 教育センター 課長 北田智明



寄付講義の開催

全労済では、東京工業大学大学院社会理工学研究科と研究・教育ネットワークを構築し、さまざまな活動を通じた協同組合理念の実現を目指しています。

2007年4月より「生涯設計のためのリスク管理と労働福祉」をテーマに、寄付講義を開講しています。本寄付講義の履修者は、この7年間で770名(前期523名、後期247名)を数え、好評を博しています。8年目を迎える今年度も、業界・学界の有識者や行政経験者等を講師陣にお迎えして、年金・医療・介護・生活保護などといった社会保障問題から労働・雇用を巡る労働福祉などについて取り上げています。



講義に耳を傾ける大学院生

寄付講義の概要

- ・講義名：生涯設計のためのリスク管理と労働福祉
- ・講義期間：2014年4月8日～2015年1月27日
- ・講義数：前期15回、後期15回(1講義90分)

防災・減災活動

趣旨



災害の多い日本において、防災・減災は、安心できる社会づくりのための欠かせないテーマです。全労済では、家族で災害のしくみ等を楽しく学べる「ぼうさいカフェ」の開催や、Webサイトで簡単に防災・減災に関する個々の現状の再確認ができる「防災点検アンケート」等を通じて、起きる前に「そなえ」、万一のときに「まもる」、地域の防災意識向上を後押しする取り組みを行っています。

全労済の「ぼうさいカフェ」

「ぼうさいカフェ」は、内閣府が国民の防災意識を高めてもらうため、出前講座として推進しているものです。地震や台風などの自然災害に対して、誰でもちょっとした心がけで自分の身を守り、災害の被害を小さくすることができます。全労済では、「楽しく分かりやすく」をモットーに、非常食の試食や、専門家などによる講演会、防災科学実験ショー、防災ゲーム等、さまざまなイベントを組み合わせ開催し、家族一緒に楽しく学べる場を提供しています。



非常食の試食コーナー

開催報告（2013年6月1日～2014年5月31日）

「災害を理解し、災害を学ぶ」というテーマのもと、2013年度は下記のとおり全国各地でイベントを開催し、子どもから大人までたくさんの方にご参加いただきました。

ぼうさいカフェ in 釧路(北海道)	ぼうさいカフェ in 松本南(長野)	ぼうさいカフェ in エールフェスタ(東京)
ぼうさいカフェ in 青森	ぼうさいカフェ in 長野南(長野)	ぼうさいカフェ in 住之江公園(大阪)
ぼうさいカフェ in 岩手	ぼうさいカフェ in 静岡	青少年のための科学の祭典2013笠岡大会(岡山)
ぼうさいカフェ in 宮城	ぼうさいカフェ in 三重	2013年度ぼうさいカフェ(連合島根中央メーデー会場)
ぼうさいカフェ in 秋田	ぼうさいカフェ in とっとり	ぼうさいカフェ in 生協まつり(山口)
ぼうさいカフェ in 山形	西部労福協まつり(鳥取)	ぼうさいカフェ in サンメッセ香川2013
ぼうさいカフェ in 福島	ぼうさいカフェ in 愛媛	ぼうさいカフェ in ママ∞フェスタ2014(香川)
ぼうさいカフェ in 千葉	KOCHI防災危機管理展2013(高知)	ぼうさいカフェ in さかいで塩まつり2014(香川)
ぼうさいカフェ in 八王子(東京)	ぼうさいカフェ in 北九州(福岡)	ぼうさいカフェ in あやがわ2014(香川)
防災フェア2013 in 六本木(東京)	ぼうさいカフェ in 大分	ぼうさいカフェ in 京築・田川地協メーデー(福岡)
ぼうさいカフェ in 西新宿(東京)	ぼうさいカフェ in 宮崎	トヨタ紡織九州労組 ユニオンフェスタ(佐賀)
ぼうさいカフェ in 神奈川①	ぼうさいカフェ in あまみ(鹿児島)	片田敏孝氏講演会 ー子ども達に生きぬく力をー(熊本)
ぼうさいカフェ in 神奈川②	ぼうさいカフェ in いとまん(沖縄)	
ぼうさいカフェ in 諏訪(長野)	全労済防災カフェ「忘れないシンサイ 미래の防災イベント」(滋賀)	
ぼうさいカフェ in 上伊那(長野)	ぼうさいカフェ in とくしま 2013「いろいろな非常食を食べてみよう」	

※順不同



Dr. ナダレンジャーの防災科学実験ショー



ストローハウスの工作実験



起震車による地震体験

地域・文化支援などその他の活動

趣旨



「次代を担う子どもたちとご家族に、良質な文化芸術に触れ、豊かな心を育んでいただきたい」。そんな願いを託し、“ご家族皆さまで楽しんでいただける”というキャッチフレーズに沿った、厳選した作品を取り揃え、毎年演劇などをお届けしています。2010年度からは全国展開を開始しており、それぞれの地域における、組合員とのコミュニケーションの機会としても役立っています。

全労済文化フェスティバル2014の開催

23回目の開催となった今回は、こくみん共済誕生30周年を記念して、映画・江戸系あやつり人形・コンサート・ミュージカル・演劇などの7作品19公演を上演し、3,941名のご家族にご来場いただきました。また、全国展開として3府県で開催した公演では、3,846名のご家族にお楽しみいただきました。

日程と演目



映画
「じんじん」
公演日: 2014年3月16日(日)



子どものための舞台芸術創造団体の会
**「3.11を忘れない
ー子どもの今と舞台のカー」**
公演日: 2014年4月5日(土)・6日(日)



江戸系あやつり人形 結城座
**「宮沢賢治の写し絵劇場
注文の多い料理店」**
公演日: 2014年3月21日(祝)～23日(日)



劇団仲間
「空の村号」
公演日: 2014年4月11日(金)～13日(日)



SHOW-COMPANY ミュージカル
「This is My Song」
公演日: 2014年3月28日(金)～30日(日)



親子のためのクラシックコンサート
「音楽の絵本」
公演日: 2014年4月1日(火)



**「山崎バニラの
活弁大絵巻2014」**
公演日: 2014年4月3日(木)・4日(金)

全労済文化フェスティバル全国展開

：福岡県本部

劇団俳協 **ミュージカル「あらしのよるに」**
公演日: 2013年12月15日(日)
劇団芸優座 **「パパはマジシャン」**
公演日: 2014年3月29日(土)

：宮城県本部

劇団俳協
**ミュージカル
「あらしのよるに」**
公演日: 2014年3月29日(土)

：大阪府本部

劇団俳協
**ミュージカル
「あらしのよるに」**
公演日: 2014年4月6日(日)

2013年 夏休み児童・青少年演劇フェスティバル ～“笑いと涙と感動をあなたに！”

期間中は連日入れ替わりで33公演が開催されたほか、演劇的体験ワークショップや関連企画展示が行われ、親子連れなど6,537名にご来場いただき、夏休みの思い出としてお楽しみいただきました。

公演日: 2013年7月20日(土)～8月7日(水)
主催: 日本児童・青少年演劇劇団協同組合
共催: 全労済
後援: 東京都・全国公立小学校児童文化研究会
東京都小学校児童文化研究会
(社)日本児童演劇協会
NPO 法人日本子ども文化学会 ほか





プロジェクトパートナーの声



今年度も企画実行委員や関係者の方々のご協力のもと、全34作品57回公演を開催し、大勢の皆さまにご来場いただきました。子どもたちの豊かな心を育む舞台芸術に触れる機会として、また、友人や家族と一緒に楽しむ機会として、今後も良質な作品の提供を目指していきます。

株式会社スペース・ゼロ 企画制作チーム
(全労済文化フェスティバル事務局) チーフマネージャー 馬場哲也氏

社会福祉団体への寄付

全労済では、1981年より障がい者を対象とした支援活動、高齢者を対象とした支援活動、災害対策を対象とした支援活動を行っている社会福祉法人などの団体へ、継続して支援を行ってきました。2013年度も外部有識者等による審査委員会にて以下の25団体を選定し助成金を交付しました。

No.	団体名	事業名
1	学校法人 日本社会事業大学	「認知症の人と家族が安心して暮らせるまちへ」～東日本大震災で起こったことから学ぶ～
2	一般社団法人 日本介護支援専門員協会	介護と労働が両立できるためのケアマネジャーによる支援のあり方調査研究事業
3	一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会	ご利用者を対象とした福祉用具サービス計画の普及・啓発事業
4	一般社団法人 シルバーサービス振興会	介護従事者向けの介護虐待防止普及啓発パンフレットの作成配布事業
5	一般社団法人 日本福祉用具供給協会	高次脳機能障害(認知症を含む)の特徴と福祉用具導入の留意点 解説集作成事業
6	NPO法人 自立支援センターふるさとのか	単身高齢者等の地域居住を支える生活支援事業
7	公益財団法人 日本チャリティ協会	障害者の就労等促進のための障害者アートの活性化と商品開発
8	公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会	災害に強いまちづくりに向けた障害当事者と専門職の取り組みに関するシンポジウム開催事業
9	社会福祉法人 日本点字図書館	視覚障害者の情報収集支援事業
10	社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター	「視覚障害者の就労 ～現状と課題～」出版事業
11	社会福祉法人 全国盲ろう者協会	当事者主体の運営を目指した「全国盲ろう者大会」開催事業
12	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会	人にやさしいまちづくり・共生社会のあり方を考えるための交流発信事業
13	社会福祉法人 日本盲人会連合	視覚障害者の同行援護事業に関する実態把握と課題における調査研究事業
14	社会福祉法人 日本盲人福祉委員会	アジア太平洋地域における視覚障害者雇用・就労促進のためのマッサージについての調査及び情報提供とその活用
15	公益財団法人 日本障害者スポーツ協会	パラリンピック(ソチ・リオデジャネイロ)選手育成事業
16	NPO法人 日本セルフセンター	障害者福祉事業所のための共同受注窓口運営基盤づくり支援事業
17	公益財団法人 テクノエイド協会	補聴器の装用等に関する情報提供事業
18	一般財団法人 全日本ろうあ連盟	アジアにおけるろう女性の自立・支援のための実態調査
19	公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会	イギリスのメリデン版訪問型家族支援技術(ファミリーワーク)の日本への導入にむけた講演会の開催
20	NPO法人 全国聴覚障害者情報提供施設協議会	広域災害時の聴覚障害者への情報ネットワーク構築と支援のあり方研究事業
21	社会福祉法人 日本介助犬協会	障害者の社会参加・就労支援のための介助犬普及・啓発事業
22	公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本	2014年第6回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・福岡におけるインクルージョンイベント事業
23	社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター	映像作品の手話表示方法等に関する調査研究事業
24	NPO法人 地域ケア政策ネットワーク	介護サービスの質の向上に資する介護相談員派遣事業への理解を促進する事業
25	NPO法人 メドウサン・デュ・モンド・ジャポン	医療・福祉の支援が必要な障がいがあるホームレス状態の人々の社会生活援助事業

環境保全活動

趣旨



地球温暖化、天然資源の枯渇、異常気象など地球規模の環境問題は深刻さを増しています。全労済では、環境問題への対応は、今やすべての企業、個人が自身の問題として取り組むべき課題であるとの認識に立ち、「社会貢献付エコ住宅専用火災共済」等の推進を通じて組合員のたすけあいの輪を広げる一方、環境保全団体への助成事業により、積極的に環境保全に取り組んでいます。

本業を通じての取り組み ～社会貢献付エコ住宅専用火災共済

「社会貢献付エコ住宅専用火災共済」から公益社団法人 国土緑化推進機構が実施する「緑の募金」使途限定募金～東日本大震災復興事業への寄付として、2013年12月16日に1,100万円を贈呈いたしました。この「緑の募金」では、東日本大震災で大きな被害を受けた地域の防災林の森林整備等の被災地域復興事業が実施されます。

「社会貢献付エコ住宅専用火災共済」は社会に役立つ共済商品として、2008年1月から取り扱いを開始しています。共済に加入することで、住まいの保障とともに地球環境への貢献につながるという特長を組合員の皆さまに共感いただき、環境意識の高まりとともに、契約件数が年々増加しています。



国土緑化推進機構 谷福丸副理事長へ目録贈呈



寄付先団体:公益社団法人 国土緑化推進機構 「緑の募金」について

国土緑化推進機構および都道府県緑化推進委員会は、2011年4月より開始した東日本大震災被災地域の復旧・復興に向けた使途限定の「緑の募金」で集まった募金を活用し、被災地域において海岸防災林等の森林整備、地域や学校周辺の緑化等の復興事業を進めています。

■ Web サイト <http://www.green.or.jp/>



国土緑化推進機構の活動風景

被災地における緑化を応援 ～東日本大震災復興支援チャリティー「きずなリレーコンサート」

2014年3月15日に、全労済ホール／スペース・ゼロにおいて開催された「きずなリレーコンサート」(主催:公益社団法人 国土緑化推進機構)に協賛しました。当日は、300名近くの方々にお集まりいただき、竹内靖夫さんの司会による進行のもと、宮城県気仙沼市出身のパラリンピアン佐藤真海さんのトークショーや、同じく気仙沼市出身のシンガーソングライター熊谷育美さんによるミニライブが行われました。

第2部では、奄美島唄の唄者である朝崎郁恵さんをゲストに迎え、吉俣良 with 大先生室屋ストリングスクインテットによるプレゼントライブが行われました。コンサートの開催を通じて、東日本大震災からの復興を支援しようという気持ちを、音楽の力を借りて一人でも多くの人の心に届けて活動の輪を広げたいと願っています。

また、コンサートで集まった募金は、被災地の緑化や防災林等の整備に充てられます。



熊谷育美さんによる弾き語り

全労済地域貢献助成事業

全労済では、社会貢献活動の一環として、1992年より環境問題などに取り組む団体を対象に助成事業を継続して行っています。

2014年は、「未来の子どもたちに豊かな自然を残すために、今と未来を生きる子どもたちのために」をテーマに、全国環境活動および子育て・子育て支援活動に関わる NPO や市民活動団体等より募集しました。本年より2分野(環境分野と子ども分野)の区分けをなくし、対象活動を分かりやすくしました。地域の人々がたすけあって環境を守る活動、子どもの健やかな育ちを支える活動を支援し、活動の輪が広がることにより、人と人との絆が強まりコミュニティの形成、発展、再生につながることを期待します。

全労済は、豊かで安心できる社会が形成され継続するために、たすけあいの輪を広げ、積極的に地域社会へ貢献していきます。



助成事業の概要

助成対象となる団体

日本国内を主たる活動の場とする、下記(1)～(3)のいずれにも該当する団体を対象とします。

- (1) NPO 法人、任意団体、市民団体
- (2) 設立1年以上の活動実績を有する団体
- (3) 直近の年間収入が300万円以下の団体(前年度の繰越金を除く)

助成対象となる活動

- (1) 地域の生態系を守る活動
- (2) 低炭素・循環型の地域社会をつくる活動
- (3) 地域の自然や環境の大切さを学ぶ活動
- (4) 子どもや親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりを生み出す活動
- (5) 困難を抱える子ども・親が、たすけあい、生きる力を育む活動

重視する活動

- ① 広く地域住民に対して活動が開かれ、日常的な人のつながりが生まれる活動
- ② 地域に密着し継続して取り組む活動
- ③ 助成によってどう活動が充実、発展するのかが明確である活動
- ④ 上記、(4)、(5) の対象活動については、子どもや当事者が主体的に参画して取り組む活動、子どもの自己肯定感を高める活動

注)自己肯定感とは、「自分は生きている価値がある」という気持ち。「自分の存在そのものへの自信」を意とします。

選考結果

2014年3月26日～4月9日を応募期間とし、312団体よりご応募いただきました。外部有識者などで構成される審査委員会を開催し、厳正な審査の結果、74団体を選定し、総額19,673,738円を助成いたしました。

2014年 全労済地域貢献助成事業 助成団体一覧

No.	所在地	団体名	活動内容
1	北海道	自然体験活動指導者ネットワーク えんりっと	地域の森林環境を地域住民が気軽に利活用することを提案する出前講座
2	北海道	NPO法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	ひきこもり当事者参画型創造的社会的参加促進事業
3	北海道	NPO法人 うれし葉	畑 DE けんこう広場 ～植える・育む・収穫・食す～
4	北海道	札幌 feeling 子育ての会	子どもの「育てにくさ」を理解しあい、互いにピアサポートしあえる親子交流の場づくり
5	青森県	青森 LD 親の会「こんぺいとう」	社会人として生きるために必要な力を!! 体験型合宿 暮らし・就労・自立塾
6	秋田県	横手市立横手南小学校 PTA	あたご山再生プロジェクト
7	秋田県	古民家に集う会	秋田老農交流プロジェクト ～農業県・秋田の礎を築いた絆～
8	福島県	半田銀山そばの会協議会	平成26年秋そば栽培活動強化と耕作放棄地の解消活動
9	茨城県	林城保存協力隊	林城自然林保護活動
10	茨城県	ステップの会	八千代町を中心とした障害児のための支援サービスの創出
11	栃木県	にほんご Friendly Class	ドリーム キャッチャー
12	埼玉県	食と子どものひろば三芳村	三芳ふるさと教室 ～子ども田んぼ企画～
13	埼玉県	草加子育てネットワーク	子育てママのネットワーク作り
14	埼玉県	NPO法人 越谷にプレーパークをつくる会	たき火を囲み交流することのできる冒険遊び場事業
15	埼玉県	NPO法人 みれっと	食物アレルギーっ子の豊かな食生活応援します
16	千葉県	ふれあい千葉	東国吉「ふれあいの森」の整備とその周辺の森・竹林・里山の整備事業
17	千葉県	NPO法人 バランス21 谷当里山計画	「いい場所づくり」と「生きもののいっぱい米づくり」「動植物観察会」
18	千葉県	NPO法人 ながれやま子育てコミュニティなこっこ	妊娠期から産褥期を地域でサポートする講座事業
19	東京都	NPO法人 緑サポート八王子	「子ども達の里山体験支援」
20	東京都	らっこの会	みんなの居場所・コミュニティ寺子屋「のぞみ塾」の運営と特別企画実施
21	東京都	子どもを守る目コミュ@文京区	児童養護施設や母子支援施設での料理教室
22	東京都	ユースコミュニティ	不登校児への「自立学習支援プログラム」
23	東京都	NPO法人 福島こども保養プロジェクト・練馬	2014年夏の保養キャンプ
24	東京都	野山で遊ぼう会	大久野遊びの森 いちにち冒険遊び場「つくって遊ぼう」プロジェクト
25	東京都	大田おもちゃライブラリー「じゃりかふえ」	障害の有無を問題とせず、地域の親子交流を活性化させるBASE作り
26	東京都	豊島子どもWAKUWAKU ネットワーク	無料学習支援 ～貧困の連鎖を断つために～
27	東京都	一般社団法人 Colabo	家庭や学校に居場所を失くし性搾取や違法労働に行き着いてしまった10代少女の生活支援、食事提供
28	神奈川県	NPO法人 伊勢原森林里山研究会	獣被害のムラよみがえれ、農地集団化で交流農園
29	神奈川県	子育て支援ワーカーズ・コレクティブ monami	親子ひろば「わっとほーむ」
30	神奈川県	TIE トマトマの会	トマトマ教室運営 一外国につながる子ども達のための補習教室
31	新潟県	フォルトネット(未来を担う子どもたちへのつながり)	自分達の活動を広報しよう
32	静岡県	NPO法人 グリーンエネルギーしずおか	「親子でつくろうエコエネルギー」エネルギー環境教育
33	静岡県	ひまわり2525プロジェクト	遊休地の有効活用により創出するひまわり育成自然体験と地域交流
34	静岡県	浜松環境ネットワーク	健全な水環境を取り戻そう ～安間川水辺再生まちづくり事業
35	静岡県	フレクティブ	ゲームを通じた異文化交流事業
36	静岡県	子どもと家族の相談室 寺子屋お～ぶん・どあ	「こどもの貧困」対策＆「世代間連鎖」予防事業

No.	所在地	団体名	活動内容
37	富山県	子育てサークル メープルシロップ	里山へ行こう！知ろう！触れよう！
38	石川県	子育て農業応援団	おいしい！たのしい！農業体験プロジェクト
39	愛知県	NPO 法人 緑の挑戦者	水源林を育成する森造り協力事業
40	愛知県	いえいく。会	家庭で行う療育を推進する活動(療育とは発達障害を持つ子どもが社会的に自立することを目的として行われる治療教育)
41	愛知県	NPO 法人 あいち・子ども NPO センター	親子の happy spot ～仲間・地域がつながる～
42	愛知県	地域研究プロジェクト	紙芝居による防災意識の啓発とコミュニティにおける絆の再構築
43	愛知県	学習教室 きみいろ	大学生による無料学習支援事業
44	岐阜県	土田水辺の会	可児川の水生生物を保護し環境改善に図っていく
45	三重県	四日市ダンボールコンポストの会	ダンボールコンポストで生ごみを堆肥化しよう！
46	三重県	一般社団法人 四日市大学エネルギー環境教育研究会	貴重な地域の資源 ～みんなで身近な河川を守ります～
47	滋賀県	おにぐるみの学校	木の岡ピオトープの貴重な自然を活用した地域づくり
48	奈良県	いこま棚田クラブ	生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造
49	京都府	鏡田自然体験クラブ	チャレンジ教室(身近な自然体験活動と木工もののづくり活動)
50	京都府	「ふくしま・こどもキャンプ 丹後の海」	ふくしま・こどもキャンプ
51	大阪府	[VVV]ヴィークラフト	「ラビッシュ・アート(廃材工作・クラフト)」で、環境活動と子どもの創造力を育てよう！
52	大阪府	NPO 法人子育てネットくるみの会	お母さんが地域につながる居場所づくりと育児仲間のリーダー育成事業
53	大阪府	e トコ・プロジェクト	寺子屋 e トコ
54	大阪府	まちなかコミュニティねっと きしわだプレーパーク ～岸和田中にプレーパークを～	子どもが考え、つくる「きしわだもん」ブランド
55	兵庫県	宝塚エコネット	ホテルの里ピカピカランドの管理とホテルの幼虫放流会による環境学習
56	兵庫県	くるみ会	くるみ会 子育てサロン
57	兵庫県	こうべ子どもにこにこ会	地域住民と外国人児童の交流のためのキッズカフェの開催
58	島根県	はすだっ子 農業体験隊	無農薬(有機栽培)の野菜作りにチャレンジしよう。
59	鳥取県	NPO 法人 八東川清流クラブ	地域の自然を守り、地域の自然や環境の大切さを学ぶための活動
60	鳥取県	竹援隊	竹援隊 ～持続可能な里山整備を目指して～
61	岡山県	ツインズマザークラブ	多胎育児サークルの運営・広報活動
62	山口県	小野湖の水を守る会	水源地保全プロジェクト2014
63	徳島県	小松島市国際交流協会	インターナショナル子育てサークル「ももたろう」の子育て支援と地域交流支援事業
64	香川県	みんなでつくる自然史博物館・香川	やしまのいきもの展(仮)
65	愛媛県	レインボープライド愛媛	性的マイノリティ当事者とその家族の為の居場所づくりと相談事業
66	福岡県	まほろば自然学校	太宰府市民の森湿地再生活動 ～太宰府の生き物たちのために～
67	佐賀県	佐賀地区 BBS 会	少年ボランティア体験セミナー「YOU 友達」
68	長崎県	ミュージッククラブたんたん	夏季休業中の障害児者の余暇支援活動「たんたんの夏休み大作戦！2014」
69	熊本県	ツナガリアートプロジェクト	ツナガリアートワークショップ事業
70	大分県	任意団体 みんなの学校	みんなの学校、ぶらぼうファーム保全活動を通した、多種多様な交流の場づくり、自然体験活動の場づくり。
71	大分県	大分県立国東高等学校 JRC 部	「食」を通して人と繋がる…高校生による町作りプロジェクト
72	宮崎県	森のこども園	森のこども園
73	鹿児島県	NPO 法人 Rin かごしま	性の正しい理解 ～ HIV / エイズをとおして～
74	沖縄県	NPO 法人 宮古島の環境ネットワーク	教育事業「海辺の環境教育」

2013年 助成団体インタビュー

うわやぬま
ふるさと上谷沼 地域創造塾



代表
貴家(さすが) 章子さん

ー「地元の自然環境を守りたい」 そんな気持ちからスタートしたそうですね。

私自身がこの地域で育ちました。ここから東京の学校に通っていたときに、地元にはシラサギがいるのが自慢でした。子どもの頃には、湿地や雑木林、空き地が当たり前であり、さまざまな生き物を見ることができたのです。町の中の自然は子どもの遊び場であり、生き物のすみかでありましたが、社会は“未利用地”と見なし、開発の波にのまれ、今ではこの調節池周辺のみになってしまいました。さらにその残されたヨシ原で、野鳥のオオヨシキリの営巣期に、ゆりかごであるヨシが一斉に刈られていく様を目の当たりにしたとき、遂に放っておけなくなりました。

ー活動は確実に賛同者を増やし、 成長してきたのではないのでしょうか。

最初はひとりで、オオヨシキリの保護と、野鳥のすめる草原があることの大切さを訴え始めました。2007年に仲間を募るチラシを配布したら問い合わせがきて、その一号は女子大学生。勉強会に参加したいと



この日はイベントの下見を兼ねて集合！

言ってくれて、あのときは感激しました。それを機に、ひとりふたりと仲間が集まり、今はメンバーも25名に増えて、徐々に組織としての

動きがとれるようになってきました。

10代から80代まで、実に幅広い年代の方がいて、それだけに難しい面はありますが、自らの成長も実感できて充実しています。地域のため、次世代のために、ともに汗を流す仲間がいるのは素晴らしいことですね。始めて良かったと、心から思っています。

ー助成金について、 活用のしかたを教えてください。

活動はほぼメンバーによる手づくりですが、イベント時の講師への謝金や、チラシの印刷代など、細々とお金もかかります。全労済さんの助成金は、中でも、メンバー自身の学習を目的とした費用に充てられるのありがたいです。どんな団体にも言えることですが、良い活動のためには、内部の人間の力量こそが重要です。使途に人材育成を含めない助成金が多い中、非常に助かっています。



子どもたちは水辺が大好き。
浮かべた笹舟に興味津々

● 助成分野: 環境 ● 所在地: 埼玉県さいたま市南区

● 助成対象活動:
地域の生態系を守ることにつながる活動を、市民の参加型で、行政と連携しながら行う。

■ Webサイト:
<http://c.saitamacity-support.jp/gnks13/mypage/index.php?gid=G0000136>

NPO法人 こだいら自由遊びの会



代表
足立 隆子さん

ー子どもも、そして大人も、 のびのび楽しそうですね。

今、特に都会では、子どもたちが走り回ったり、わいわいと声を上げて元気に遊ぶ光景を見ることが少なくなりました。地域ごとに公園はあっても、走ってはいけないとか、大声はダメだとか、意外と禁止事項が多いのです。静かに暮らしたい人たちがいるので仕方のないことかもしれませんが、たとえば友だち同士で集まっても、ゲームをしたりして過ごしています。けれど、子どもが思いっきり遊ぶということは本当に大切なこと。外遊びの機会がないと、土や草のような自然物を五感で感じることなく大人になってしまいます。

ー子育て中はなおさら、 地域の中のつながりが心強いと思います。

地域の雑木林や公園などを活動の場にしているのですが、高い木にロープをつるしてのブランコ、ベゴマやチャンバラ、鬼ごっこといった、シンプルな遊びも子どもたちは大好きです。多くを手づくりしますから、大人から教わることも多いため、自然とコミュニケーション



現代っ子だって、なつかしい遊びも好き

が生じます。乳幼児からお年寄りまでが集い、小学校の低学年のときに参加し始めて、大学生になった今も来てくれるみんなの「お兄ちゃ

ん」もいれば、自分の子育てが終わっても子どもと遊べるのが嬉しいと言って参加してくれる人もいます。地域のさまざまな人たちとの関係を育むことができるのもまた、子どもにとっても親にとっても代えがたいこと。参加するようになって、子育てが楽になったとか、人と関わることに積極的になったと話すお母さんも多いです。

ー福島県の子どもたちとも、 交流があるそうですね。

震災後、外遊びが制限されるなどでストレスが心配されていた福島の子どもたちを、保養活動で清里に招いたり、小平市でボランティアを募って、ホームステイで受け入れたりしました。どこにあっても子育ては、多様な人たちと交流し、協力し合いながらで



会話も弾むお茶の時間。
自然と横のつながりができる

けるのが理想ではないでしょうか。そのために私たちも、活動を外に向かって開き、地域を巻き込みながら進めていく心がけています。

● 助成分野: 子ども ● 所在地: 東京都小平市

● 助成対象活動:

子どもたちを、地域の多様な人とのつながりの中で育てていくため、出会いの機会や遊び場をつくる。

■ Webサイト: <http://plaza.rakuten.co.jp/kodairaplaypark/>

全国の事業所での活動

全国の事業所で展開された、2013年度の主な社会貢献活動をご紹介します。

● 秋田県本部

- ・「子育て応援団すこやかあきた 2013」への協賛・参加
- ・「あきたユニセフのつどい」への役員参加、ユニセフ募金活動

● 山形県本部

- ・文化フェスティバル「人形劇ゲゲの鬼太郎」開催、東日本大震災の避難者などを招待

● 福島県本部

- ・「第7回全労済還暦軟式野球大会」開催



● 茨城県本部

- ・加入者のつどい参加者(2,841名)に使用済み切手等の収集を呼びかけ、茨城県国際交流協会へ寄贈

● 栃木県本部

- ・エコキャップ、タオルの収集活動
- ・特別養護老人ホーム「元気の里」介護ボランティア
- ・JR東労組「旅のプレゼント」にて障がい者の旅行への同行、イベント車両でのボランティア活動
- ・独居老人宅への花寿司プレゼント

● 埼玉県本部

- ・春休み小学生親子社会施設見学の実施
- ・東日本大震災復興支援募金活動の実施
- ・「全労済カップ争奪 第39回埼玉県スポーツ少年団 小学生軟式野球大会」への特別協賛

● 東日本事業本部

- ・「第41回全労済小学生作品コンクール」開催

● 千葉県本部

- ・「第10回全労済産別推進会議チャリティーイベント交流会」寄付による「あしなが育英会」への遺児奨学資金提供

● 東京都本部

- ・総代会議案書類用エコバッグの購入による「MOTTAINAI」キャンペーンへの参画(植林)
- ・「東北復興支援食品カタログ」購入
- ・東京都消費者月間「くらしフェスタ東京2013」にて、サバイバルカード作成
- ・「ぜんろうさいエールフェスタ 2013」開催、売り上げ収益等を日本赤十字社へ寄付
- ・伊豆大島土砂災害被災地支援ボランティアへの職員参加
- ・「2014 KOBE MEMORIAL 1.17灯りのつどい」市民型防災・減災イベントへのボランティア職員参加
- ・「バレンタイン愛の献血推進月間」設定、職員へ献血を呼びかけ
- ・募金付き飲料水自動販売機の設置、13,115本分の購入費の一部を日本赤十字社へ募金
- ・夏休み親子イベント「学ぶ×遊ぶ」体験ツアー開催、参加費全額を日本赤十字社へ寄付



● 神奈川県本部

- ・海岸清掃ボランティアへの役員等の参加

● 長野県本部

- ・釘子明氏 講演会「被災地陸前高田を語る」開催
- ・「中村雅俊 絆・忘れないトーク&ライブ」開催



● 山梨県本部

- ・参加料がYMCAの障がい児支援活動に充てられる「第16回山梨チャリティーラン2013」への参加

● 静岡県本部

- ・県内15カ所の福祉施設へ地域共済会のイベントで参加者から回収した未使用タオル寄贈活動
- ・各地区運営委員会より2特別支援学校・6社会福祉事業団体へ寄付、防災用品等の寄贈

● 新潟県総合生協

- ・「赤い羽根共同募金運動」による募金活動
- ・国際支援活動 NGOハンガー・フリー・ワールドの回収キャンペーンに参加
- ・日本生協連「東日本大震災被災地生協のボランティア活動支援募金」への参加
- ・認知症サポーター養成講座の受講
- ・「福島土壌スクリーニングプロジェクト」への参加





● 中日本事業本部

- ・ペットボトル等、飲物容器の分別回収と完全リサイクル、およびキャップ収集によるワクチン寄贈への協力
- ・日本赤十字社「団体献血活動」実施

● 富山県本部

- ・富山県生協連主催「第19回海岸クリーン作戦」への役職員参加

● 福井県本部

- ・福井県生協連主催「第17回海岸クリーンアップ」への職員参加

● 愛知県本部

- ・「赤い羽根共同募金運動」による募金活動
- ・東日本大震災復興チャリティーイベントによる募金活動



● 岐阜県本部

- ・子ども劇場・おやこ劇場への劇団公演助成

● 三重県本部

- ・三重県の環境保全活動「企業の森」に参画し、2008年に実施した植栽の補植および保全契約の継続

● 滋賀県本部

- ・「第23回、第24回びわ湖クリーンフィッシング大会」への後援

● 兵庫県本部

- ・ペットボトルのキャップ収集によるワクチン寄贈への協力
- ・「オレンジリボン運動」への協賛

● 京都府本部

- ・「第30回親子劇場(米村でんじろうサイエンスプロダクション監修サイエンスショー)」開催
- ・京都 SKY センター主催「SKY ふれあいフェスティバル」への協賛
- ・災害救助法の適用となった舞鶴市・福知山市に対する義援金
- ・京都労協「2013京都勤労者健康づくりフェア」への職員参加
- ・「全労済の森」森林保全活動としてモデルフォレスト協会への加盟、亀岡市森林組合への森林保全委託

● 大阪府本部

- ・全労済「春の子ども写生大会」
- ・日本赤十字社「団体献血活動」実施
- ・NPO 法人 ゆめ風基金等が主催する東北⇄関西ポジティブ生活文化交流祭への協賛
- ・全労済イベント 劇団カッパ座による等身大人形劇「白鳥になったアヒル」開催
- ・「第29回全労済子ども絵画コンクール」開催・展示会



● 広島県本部

- ・ペットボトルのキャップ収集による後進国へのワクチン寄贈への協力
- ・新入児童へのランドセルカバーの贈呈(2,000名)



● 香川県本部

- ・「第8回エアポートクリーン作戦」への参加

● 岡山県本部

- ・SON・岡山バドミントン競技会、水泳競技会、陸上競技会の運営スタッフとしての職員参加



● 徳島県本部

- ・2013年度徳島県本部助成事業

● 福岡県本部

- ・＜創立50周年記念講演＞
『『未来に伝えること』私たちは、子供たちになにを残せるか』
- ・＜創立50周年組合員感謝事業＞
「暮らしと遊びの夏休み」研修旅行、「福岡マルシェふれあい商店街」、親子・家族ミュージカル「あらしのよるに」開催、各イベント会場での募金活動

● 長崎県本部

- ・あんしん日本キャンペーン
「東日本大震災復興支援活動」による寄付

● 沖縄県本部

- ・「第25回ぎのわん車いすマラソン大会」への特別協賛

役職員ボランティア

「海の森」秋の植樹まつり

東京湾に浮かぶ埋立地を、美しい森に変えるために

「海の森」とは、東京都が進める、ゴミと建設発生土で埋め立てられてできた島に、苗木を植えて美しい森に育てるプロジェクトです。全労済は、都民や企業の参加型で行われるこのプロジェクトに賛同し、2013年11月の週末、26名の役職員が“秋の植樹まつり”にボランティア参加しました。スタッフの方に植え方を教わった後、クロマツや、オオシマザクラ、ヤブツバキなど、十数種類の苗木を300本以上植樹。たくさんの樹種を植えるのは、集まる生物の多様性にも配慮してのことです。植樹地は、2020年の東京オリンピックで馬術競技の会場にも予定されている場所。秋の清々しい天候の下、役職員一同、気持ちの良い汗を流すことができました。



自ら植えた苗木を前に、皆なかなかの達成感です

地球環境に思いをはせる一日に

慣れないためか、思っていたより土が硬く感じられ、スコップを手に息が切れます。「意外と重労働」と笑い合いながら、それでも終始和やかな雰囲気で作業を終え、最後に皆で記念撮影をして帰途につきました。参加した役職員からは、「次にこのような機会があれば、家族と一緒に参加したい」「日頃は土に触れることがないので楽しかった。また参加したい」と意欲を示す声のほか、「東京に緑を増やすことに貢献できて良かった」「環境のために、水や電気の節約など身近なことからやっていきたい」といった、植樹を通して地球環境への思いを新たにす声も聞かれました。



樹種別にグループに分かれて植えます



同僚と週末に顔を合わせるのも新鮮！



元気に育つようお願いを込めて

日本赤十字社「団体献血活動」

2013年12月24日に全労済会館において「団体献血活動」を実施しました。この取り組みは、全労済の役職員等が自発的にボランティア活動に参加できる取り組みとして実施しました。全労済会館に勤務する全労済グループの役職員、協力会社の社員に呼びかけ、当日の献血者数は103名となりました。

2013年フィリピン台風緊急募金

2013年11月8日に発生したフィリピン台風30号被害に対する支援について、2013年12月16日～2014年1月15日の間、全労済グループ役職員で全国的な募金活動を実施しました。集まった3,236,760円は、日本赤十字社を通じて現地での救護・復興活動に役立てられています。

全労済グループの取り組み

日本再共済連

富士山の森づくりプロジェクト ～取り組み7年目～

日本再共済連では社会貢献活動として、公益財団法人 オイスカがコーディネートする「富士山の森づくりプロジェクト」に取り組み、「自然環境の再生」を目的に支援を行っています。このプロジェクトは、病虫害により樹木が大量枯死した富士山の西側斜面に、もともと富士山に自生している樹種を用い、自然林に近い生態系を保全できる森づくりを行うことで、被害を受けた森林の再生に取り組んでいるものです。日本再共済連では、会員の役職員とともに、2007年のプロジェクト開始から5年間で、面積4.6ヘクタールへ約4,600本の苗木を植樹し、2013年度では、植樹した場所の緑化維持活動等の経費を負担する形での支援を行いました。

植樹した苗木の生育状況は現段階では概ね良好ですが、富士山特有の厳しい気象状況やシカの食害により、枯死率は年々高くなっています。そのため、2012年度からシカ害防止ネットの設置が進められ、長期にわたり植栽木を守る活動となっています。2013年6月に富士山は世界文化遺産に登録されましたが、プロジェクトの活動地は登録範囲に含まれており、当活動が森林保全だけでなく、「富士山」に宿る文化・歴史・芸術の源泉としての価値を守ることにつながる活動であることが認められ、今後の保全計画の一つとして組み込まれました。日本再共済連は同プロジェクト推進協議会、現地勉強会へも参加し、地域社会との連携した取り組みを行っています。植樹した苗木の成長を見守るため、今後も費用支援を行うとともに、推進協議会へ参加していきます。



シカ害防止ネットに守られ
どんぐりの実がつかました

一般財団法人 全労済協会

東京シンポジウム「99%自立可能な社会へ ～社会的包摂の実現に向けて～」(2013年11月開催)

社会保障制度や雇用環境にひずみが生じ、人々が不安を感じる日本社会において、互いに支え合いながら自立を促進していく社会を築くために



市民と社会のこれからを議論

はどうすべきか、市民の力の活かし方について、各界を代表する論客をお迎えして講演や議論をいただきました。

福島講演会「復興への基軸 ～世界の構造転換と日本の進路～」(2014年5月開催)

今も課題が山積する被災地の復興について、第一部では日本総合研究所理事長の寺島実郎氏による幅広い見地からの講演、第二部は立谷相



第二部、将来の復興に向けた鼎談

馬市長、菅野飯館村村長を交え、現状認識と将来の復興への鼎談、第三部では「山木屋太鼓」の演奏を催しました。

2013年度出版物

- 『復興への基軸 ～世界の構造転換と日本 講演会報告書』(2013年7月刊行)
- 『生活保障の戦略 ～教育・雇用・社会保障をつなぐ』(2013年10月刊行 岩波書店)
- 『99%自立可能な社会へ ～社会的包摂の実現に向けて 2013年シンポジウム報告書』(2014年2月刊行)
- 『協同組合 未来への選択』(2014年5月刊行 日本経済評論社)

早稲田大学で寄付講座を開催

2013年4月より早稲田大学商学部において、学生・一般社会人を対象に「少子高齢社会における生活保障論 ～変化する福祉社会を職業人・市民としてどう生きるか～」をテーマに寄付講座を開講しました。(前期15回・1 講義90分)2011年4月より同校で開講し、3年目の開講です。

全労済 関連事業会社の取り組み

全労済アシスト株式会社

東日本大震災被災者支援

2014年3月に行われた東日本大震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2014 ～いま、ともに」へ、3年連続で協賛しました。震災をきっかけに関西へ避難されている方との交流会や関西からできる支援を考える企画などが行われました。

社会貢献につながる自動販売機の設置

2014年3月、吉田ビル(大阪府吹田市)に寄付金付きの自動販売機を設置しました。1本購入するごとに3円が日本乳がんピンクリボン運動を行うNPO法人 J.POSHへ寄付されます。



ペットボトルキャップ回収活動

前年度に引き続きペットボトルキャップを回収し、2013年12月にNPO法人 エコキャップ推進協会へ約51,600個のキャップを送付。キャップの対価により約60人分のポリオワクチンが発展途上国へ届けられます。

本の寄贈活動

2014年1月から2月にかけて読み終えた本を募り、ブックオフ社のボランティア宅配本サービスを通じた寄付活動を行いました。217冊の本が集まり、3,074円がNPO法人 ピースウィンズ・ジャパンへ寄付されました。

団体献血活動

2014年3月、全労済大阪事務センターと合同で「団体献血活動」を実施し、従業員からは48名が献血しました。また、全労済堺会館でも2名が献血しました。

使用済みカーディガンの寄付

女性従業員へのカーディガン貸与を取り止めたことに伴い、ダンボール4箱分のカーディガンをリクルート社の提供する「古着 de ワクチンサービス」を通じて発展途上国へ送付しました。1箱あたり5人分のワクチンが届けられ、カーディガンは雇用創出に役立てられます。

カード利用ポイントの寄付

法人クレジットカードの利用によりためられたポイント(23,105円分)を、日本赤十字社に寄付しました。

株式会社全労済ウィック

社会の一員として世の中に貢献できること、全労済グループの一員として全労済の理念を実践することを目標に、活動の一端に社会貢献活動・ボランティア活動を据えている全労済ウィック労働組合と協同で以下の活動を実施しました。

東京都主催「海の森」植樹ボランティア

ゴミと建設発生土で埋め立てられた島を植樹により「海の森」公園にして、東京湾沿岸の他の公園と合わせて、海風を皇居や代々木一帯など



の都心に運ぶプロジェクトの一つです。2013年11月の週末、9名で一般ボランティアと一緒に「海の森」公園で植樹を行いました。

「ろうきんエコブック制度」の実施(本社・事業所)

2014年4月、中央労働金庫が実施している、古本を収集・販売する「障がい者が働く場を広げる社会貢献活動」に賛同し、729冊の古本を寄贈しました。

災害用備蓄品の寄贈

2014年4月、年に1度点検している災害用備蓄品について、消費期限が1年未満のカンパンなど食品ロス(フードロス)を引き取り、人々へ届けるフードバンク活動を行うセカンドハーベスト・ジャパンへ寄贈しました。

株式会社スペース・ゼロ

東日本大震災復興支援コンサート 「Sharing～シェアリング～2013」

シェアリング～分かち合い、共有～「わたしたちは、今ある幸せも辛さも、共に分かち合いましょう」という庄野真代氏の呼びかけによるチャリティーコンサート。新宿での公演の収益をもとに、陸前高田、大槌の2カ所で復興支援コンサートを開催しました。

- ・「Sharing～シェアリング～2013 in 新宿」

公演日：2013年6月22日

会場：全労済ホール
／スペース・ゼロ

入場者数：370名



- ・「Sharing～シェアリング～2013 in 陸前高田」

公演日：2013年8月24日

会場：陸前高田未来商店街
「多目的ホール」

入場者数：200名



- ・「Sharing～シェアリング～2013 in 大槌」

公演日：2013年8月25日

会場：大槌町中央公民館
大会議室

入場者数：200名



《交感ひろば@ SPACE ZERO Part7》 「イシノマキにいた時間」

コメディアンであり脚本家である福島カツシゲ氏が、約1年にわたり宮城県石巻市でボランティア活動に従事した経験をもとに、自問自答を重ねながら3人芝居につくり上げた舞台。新聞等にも大きく取り上げられ話題になりました。



- ・公演日：2013年8月9日～11日

入場者数：1,095名

《交感ひろば@ SPACE ZERO Part10》 ”今の福島をダンスで語る” 「フクシマ…真実の空」「福島NOW !!」

“コントロールされていると言うが、私たちの心はコントロールされていない。「だからどっちなの」と叫んで3年。安全という魔法のことばに踊らさ

れ、私たちは、その言葉と逆の意味の踊りを踊ってきた。”

福島県いわき市で活動するダンスチームによる福島の今と未来を見つめる2公演。震災後、今の福島を伝えるため数多くの作品をつくり、県内外で公演してきました。

- ・公演日：2014年1月18日～19日

入場者数：460名



小山一芳写真展 「マゲナイゾ!…と笑顔で生きる人たち」

岩手県出身のカメラマン、小山一芳氏が東日本大震災後、被災地で「マゲナイゾ!」と生きる人たちの笑顔を撮り続けた写真展を開催しました。

- ・開催日：2013年6月21日～26日



「3月11日の、あのね。#3」 ×「ふくしまだっこ～36家族の写真展」

福島県相馬市に住む36家族の写真展をメインに、伊達市立大石小学校の全児童によるアート・パフォーマンス「桑の実が見る夢」の記録展、さらに相馬の子どもの描いた絵の展示を合わせた企画展を開催しました。

- ・開催日：2014年3月18日～30日

入場者数：342名



全国労働者共済生活協同組合連合会

【お問い合わせ先】

全労済 総務部 社会貢献推進課

〒151-8571 東京都渋谷区代々木2-12-10

TEL: 03-3299-0161(代) FAX: 03-5351-7772

ホームページ: <http://www.zenrosai.coop>

2014年7月発行



全労済は全国で
環境保全活動に取り組んでいます。

